

## 2022年度 神戸教区神学塾（信徒の神学）No.2

### — 信仰は‘教’か‘道’か —

司祭 フランシス 小林史明

#### （序）中国語の聖書を見る

神学校を出て、初めの10年余り、当時退職したばかりのある司祭から、古いアメリカやオーストラリアの祈祷書を開いて見たり、中国語の聖書を読む面白さを教えていただきました。その後、友人の結婚式に出席するためシンガポールへ行った時、「聖經」と書かれた、現代中国語聖書を手に入れました。香港で1995年に出版されたものらしいのですが、中には英語の Good News Bible と同じ挿絵がたくさん入っており、日本語や英語の文章と比べてみると面白いのです。

#### キリストは、言ではなく道？

聖書を比較する時、ヨハネによる福音書の冒頭の言葉がよく引用されますが、この箇所について中国語の聖書を開いて見て、驚きました。

『初めに言があった』という所を、「宇宙が造られる以前に、すでに道が存在していた。」と書かれているのです。

ヨハネ1：1 宇宙被造以前、道已經存在。道與上帝同在、道是上帝。

（初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。）

\*中国では、神のことを「上帝」と書くようです。そして、言は道なんですね。

漢和辞典で「道」の意味を調べると、「人の行なうべきみち」「基準とすべきやりかた」「専門の技術」「宗教の教え」「信仰をもとにした組織」などが出てきます。

幕末の頃、日本の若者たちが聖書を読んでいた、というのは、漢訳聖書のことでしょう。彼らの学んでいた漢文の知識があったので、理解できていたのだらうと思います。

#### （1）道であるキリスト

復活節第5主日の特禱は、『全能の神よ、あなたをまことに知ることは、永遠の命に至る

道です。』と呼びかけの言葉があり、それに続いて『どうかわたしたちが、み子イエス・キリストは道であり、真理であり、命であることを深く知ってみ跡に従い、永遠の命に至る道を絶えず進むことができますように』と、祈ります。道という言葉が3回出てきて、イエス様のみ跡に従うことの大切さを教えている祈りです。

日曜学校などでよく歌った、聖歌の457番。みなさんもお存知でしょう。

「主に従い行くは いかによほしき 心の空晴れて 光は照るよ  
み跡を踏みつつ 共に進まん み跡を踏みつつ 歌いて進まん」

イエス様に従ってゆく、ということは、イエス様の歩まれた道、その足跡をたどって進んでゆく、ということです。そのことは、『いかによろこばしき』（どんなに喜びにあふれたことか）と歌っています。ついでに2節目3節目をみてゆくと、『いかに幸いなる』とか『いかに心強き』というふうに、イエス様の歩まれた道、その跡をたどってゆくことの素晴らしさを歌っているのです。

確かにイエス様は、ご自身が道であること（ヨハネ14：6）を語られました。そしてイエス様に従う信奉者たちのことを、使徒言行録などでは、やはり道という言葉で語っています。伝道者であるパウロがまだサウロという名でクリスチャンを迫害する者であったころの表現です。

#### 『◆サウロの回心』

さて、サウロはなおも主の弟子たちを脅迫し、殺そうと意気込んで、大祭司のところへ行き、ダマスコの諸会堂あての手紙を求めた。それは、この道に従う者を見つけ出したら、男女を問わず縛り上げ、エルサレムに連行するためであった。』（使徒9：1～2）

私は、「この道」という言葉に出会って、私たちの信仰は、キリスト教と言うより、キリスト道と言った方がわかりやすいのではないか、と思っています。

私たちの周りには、いろんな習い事で「〇〇道」というのがあるでしょう。宗教で言えば「神道」。スポーツなら「柔道」「剣道」「弓道」、芸道なら「茶道」「華道」「書道」などなど。キリスト教なら、日曜日にせいぜい礼拝に行く、聖書を読む、聖歌を歌うくらいかもしれませんが、キリスト道なら、いつも修業をして、自分を磨くみたいなイメージがな

いでしょうか。考えてみれば、教会がよく使う「伝道」というのも、「道を伝える」ということですから、キリストの生き方、キリストの歩んだ道というのが正しいのでしょう。

カトリックの神父で「キリスト教徒はイエスのファン」と言った人がいて、私はこの人の説明が気に入って、自分なりにそれを発展させて考えたりしています。

## (2) キリスト教徒はイエスのファン

遠藤周作という、もう25年以上前に亡くなった作家ですが、この人が「おバカさん」という小説を書きました。その小説のモデルになったカトリックの神父さんで、ジョルジュ・ネランという人がいます。東京大学などで教鞭をとった、優秀な神父さんです。

この人が「おバカさんの自叙伝半分」という本を書きました。この人は日本人に伝道するためには、サラリーマンが集まるスナックでバーテンをしながら聖書を説こうと、東京新宿歌舞伎町にスナックエポペというのを開いて、働いていました。この人も11年前に亡くなったのですが、その人の本の中に、とても面白いキリスト教の説明がありました。

『キリスト教は、キリスト自身の教えたものであるよりも、キリスト自身に関する教えなのだ。キリスト教徒であるのは、キリストの教えに従うというより、生きているキリストと結ばれることなのである。』

キリスト教は私たちにいろいろな人生観や世界観を運んできた。しかし、キリスト教はそういった思想体系がすなわちキリスト教なのではない。

また、キリスト教にはさまざまな規則めいたものがある。しかし、キリスト教はそういう道徳体系でもない。

キリスト教には、教会という信者どうしのつながりがある。しかし、教会がキリスト教なのではない。教会は、生きているキリストへ導く組織なのだ。

キリスト教の核心はあくまでキリスト自身にある。だからこそ、信者はイエスのファンなのである。』（『おバカさんの自叙伝半分』より）

ちょっとイメージがわいたでしょうか。簡単に言えば、教会はイエスのファンクラブであり、一人ひとりがイエス様のことを好きで、イエス様に夢中になれるように情報を提供して、キリストへ導く組織だ、というわけです。

### (3) ファンには2段階あるのではないか

ファンという言葉から、私が連想することですが、ファンには2段階あると思います。最初の段階は、好きなスターを追っかけて、その人のことを知りたい、身近に感じたい、という段階でしょう。クリスチャンは、イエス様のファンですから、イエス様のことを知りたくて、聖書を学び、また関連の本を読んだり、イエス様の生活された所へ行きたい、ということで、今はなかなか難しいですが聖地旅行をしたりします。私も5回行きました。しかし、いくら旅行にお金をかけても、これらの行動は未だ、第1段階。

しかし、第2段階があります。ファンというのは、ただスターの追っかけをしているだけでは満足できなくなるのです。それは、あたかも自分がそのスターになったかのように行動することです。カラオケでスターになった気で歌うのはそのよい例でしょう。

この二つの段階について、面白い例を挙げたいのですが、皆さんはイースターの直前の1週間にふたつの行列の行進が行われるのを御存じでしょう。ひとつは、復活前主日に礼拝の最初に行なわれる、イエス様がエルサレム入城の記念として行われるものです。大斎節中の礼拝の式文には、「聖堂の外の適当な場所に集まり、そこから行列を行う。会衆はしゅろの枝を手に持つ」と書かれています。そして聖歌137番「ユダのわらべのほめしイエスに」を歌うのです。

これは、エルサレムの東にあるオリーブ山のふもとベトファゲという村から山を越えて城壁に囲まれたエルサレムの町まで、イエス様がロバに乗って入られるのを人々が迎える出来事を追体験するものです。本当はしゅろではなく、なつめやしの枝を持って、明るい聖歌を歌いながら行進するのでしょう。聖都エルサレムについてのビデオなど見ていると、楽しく歩いているのがわかります。

しかし私たちがその礼拝をする時には、しばしば小さなしゅろの十字架を手にするし、その日の福音書は、ロバに乗ってエルサレムに入るイエス様ではなく、その週の金曜日、イエス様が死刑判決を受けて、ポンテオ・ピラトの官邸からゴルゴタの丘へ行進し、十字架に架けられて亡くなるまでの、長い受難物語を読むのです。

そして、実際、その週の金曜日、十字架の道行きと言われる行列が行われます。死刑判決を受けてから、墓に入れられるまでの14の留（ステーション）を回る行進をされた方もあるのではないのでしょうか。イスラエルへ聖地旅行に行くと、ヴィア・ドロローサ（悲しみの道）という場所では、聖金曜日（受苦日）だけでなく、毎日、巡礼者が伝統的なステーションをめぐる行進をします。ステーションというのは、一般には、駅、停留所という訳語が頭に浮かびますが、「人や物が立っている場所」などを意味します。漢字に「留」という字を当てはめているのも、「留まる」という意味があり、イエス様の行動を思いめぐらすため、それぞれのテーマに沿った絵や漢字の文字などが掲げられることがあります。

この、日曜日と金曜日の二つの行列をして歩く行進は、イエス様をめぐる二つのファンの行動を表しているでしょう。日曜日は、ロバに乗ったイエス様の前や後ろになってついて行く。これは典型的な追っかけのファンの行動でしょう。しかし、金曜日の方は追っかけではありません。自分自身が、十字架を背負って歩いて行く、イエス様の気持ちになって、イエス様を演じている、とも言えるのではないのでしょうか。

#### （4）肝腎なのは「靈性」

「キリスト教徒はイエスのファン」と言った、ネラン神父は、その本の中で大切なことを語っていました。イエスのファンになるのに肝腎なことは「靈性」だと言います。

『肝腎なのは「靈性」と呼ばれるものだ。この奇妙なことばは、Spirituality の訳語である。その意味はこうだ。聖書の中にはキリストのさまざまな姿が見られるが、そのうちの一つを選びとり、そのキリスト像に従って自己の信仰を実践することである。』

（『おバカさんの自叙伝半分』より）

私は若いころから「靈性」という言葉に魅力を感じていました。しかし「靈」という言葉は、「風」とか「息」という意味もあって、目に見えない、つかみどころのないものと思っていました。ところが、このネラン神父の説明の、非常に具体的な表現に出会ってから、ハッキリとした道が示されたように思えたのです。

宮崎の教会では、聖餐式でパンとぶどう酒をいただいた後、座ったままで短い聖歌を歌

っています。聖歌集の556番から580番から選んで2回繰り返しています。その中で特に印象に残っているのは、563番。

『わたしはなりたい キリストを生きる人に  
わたしはなりたい キリストを生きる人』

ネラン神父が肝腎な事として紹介している「靈性」をそのまま歌にしたようで、キリストの肉と血を意味する聖餐を受けるたびに、自分がキリストに似た者になれるように、自分に言い聞かせ、またそれを受けることで励まされているようにも思えるのです。

ここで、私が印象に残っている文語聖書の言葉を紹介します。

『汝らキリスト・イエスの心を心とせよ』ピリピ人への書2章5節

口語や最近の二つの共同訳聖書を見ても、この聖句を超えたインパクトがありません。

#### (5) 神様を忘れ、神様のことを考えず、感謝を忘れた人間

私は最近、英語の感謝する(Thank)という言葉が、考える(Think)という言葉に根拠を持つ、ということを知り、是非とも語らなければならない、と思うようになりました。

パソコンで「Thank 語源」で検索すると、こんなことが出てきました。そのまま引用します。

=====

英語の「ありがとう」は、「サンキュー (ThankYou)」ですね。

サンキューはサンク・ユーで、ユー(you)は「あなた」ですが、サンク(Thank)の語源はご存じでしょうか？。

ここでちょっと重々しいですが、哲学者ハイデッガーさんにご登場いただきましょう。

語源にこだわる哲学者ハイデッガーさんによりますと「think」の古英語の thencan「思考する」と「thank」の古英語の thancian「感謝する」の語源のルーツは同じだと言っています。(『思惟とは何の謂いか』 創文社『ハイデッガー 全集』第8巻)

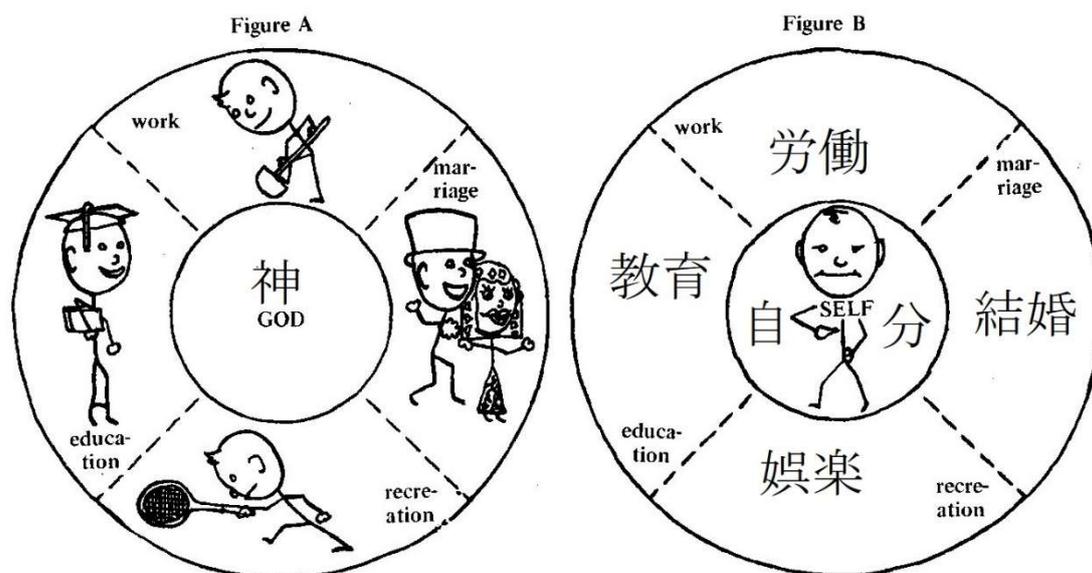
つまり、サンク(thank)はシンク「think」(考える、思う)に通じ「サン キュー(ThankYou)」は、「あなたのことを思っていますよ」ということであり、「あなたからのご恩(親切)を忘れていませんよ」といった心なのでしょう。

=====

こんな具合です。

結局、神様に造られた人間が神様のことを忘れ、神様のことを考えなくなると、感謝の念が失われる、ということらしいのです。

## (6) 自分を中心にしか考えられない人間



この図は、The Shorter Catechism という本の最初の挿絵です。元の英語だけの図に、無理して日本語の訳をつけています。出版された本の挿絵です。

(資料説明) 『\*ウェストミンスター小教理問答、(ウェストミンスターしょうきょうりもんどう、英語: The Westminster Shorter Catechism) は、1640年代にイングランドとスコットランドの神学者によって書かれた小教理問答である。ウェストミンスター会議は、この教理問答と、ウェストミンスター信仰告白、ウェストミンスター大教理問答(英語版)を作成した。これらの3文書は、プロテスタントの偉大な教理の宣言であるとみなされている。1647年に完成し、1648年4月14日に長期議会に提出された。』

ウェストミンスター小教理問答は、聖公会では使われていませんが、イギリスでも北部のスコットランド国教会(長老派)やヨーロッパなどでは改革派など、宗教改革者カルビン派に属している教会では、大切な教理問答です。下記の問いはこの教理問答の最初の問

いであり、最も有名です。英語と伝統的な日本語訳を書き出します。

Q. What is the chief end of man?

A. Man's chief end is to glorify God, and to enjoy him forever.

Q.人の生きるおもな目的は何か？

A.神の栄光をあらわし、永遠に神を喜ぶことである。

この最初の問答について、いろんな解説書が書かれていますが、前頁の図からわかることは、神様によって造られ、仕事を与えられたはずの人間 (FigureA) が、いつの間にか、神様を忘れて、自分が中心になって生きている (FigureB)、罪の状態に陥っているということを示しているように思えます。

最近のウクライナでの戦争などニュースで見ていると、同じ神様に造られた人間同志が、どうして自分の立場だけ考えて、相手も同じ神様に造られた、同じ大切な人間であることを忘れているのだろうか、と思わされてしまいます。

## (7) もう一つの課題 集団と個人の問題

私は今回のテキストで、キリスト教信仰というのは、キリストの歩んできた道をたどり、その足跡を踏みながら生きて行くこと。そして人間を作ったのは神様であり、それを忘れた人間が自己中心の生き方をしている罪の状態から、本来の在り方に戻るために、自分の中心に神様を置くのだけど、イメージがわきにくい。それで神様のことを指し示すために来られたキリストをその中心に置くことが大切だと思ってテキストを進めてきたつもりです。

ただ、今年の2月末からのウクライナの戦争など考えますと、神様と私との関係だけではすまない、集団と個人、あるいは支配者と被支配者の問題など、考える必要を感じています。そして私たちの手本であるイエス様は、集団ではなく個人、支配者ではなく被支配者の立場からいろんな発言や行動をしておられたように私には思えるのです。

最近私は2冊の本を読んで考えさせられています。

①田川建三著『イエスという男』第二版 作品社 イエスはキリスト教の先駆者ではない。歴史の先駆者である。歴史の本質を担った、逆説的反逆者の生と死！

②山崎雅弘著『未完の敗戦』集英社新書 この国は、なぜ人を粗末に扱うのか？

今、変わるために必要なこと

これらについては、今後のテキストで触れたいと思います。

## (8) 前回のテキストの補足など

前回は復活日の計算方法について、2種類の資料を盛り込み、制限の12頁ギリギリに入れてしまいました。補足したいことなど残りの紙面で書かせていただきます。

教会が復活日を統一するための会議は325年のニケヤ会議でした。その説明の時、聖餐式で説教の後唱えているニケヤ信経に触れました。しかし厳密に言うと、現在私たちが唱えているのはその56年後に開かれた、正式には『ニカイア・コンスタンティノポリス信条』と言われているものです。ところがその時の信条には、私たちが唱えている聖霊についての部分、『聖霊は命の与え主、父と子から出られ、』の下線部分「と子」という表現はなくて、『父から出られ』となっていたのです。それを7世紀頃に西側(カトリック教会)が、「と子」の部分を加筆したので問題になり、その後、『1438年に東西合同で執り行われたフィレンツェ公会議でも採り上げられ、一旦ギリシャ系の主教らは「父から子を通して」を承認したが、ロシア正教会は公会議に出席したキエフ主教を破門し、決議の承認を撤回した。これによって東西教会の分裂はそのままだにされることとなった。』(ウィキペディアより)ということです。

この「と子」(ラテン語でフィリオケ問題という)が東西教会の対立点のひとつであり、カトリックが1582年にグレゴリオ暦を採用した時、東方教会が拒否していまだにユリウス暦でイースターを決めているのも、最初の決議を変えない、というこの教派の性格を表しています。東方教会のことは、少しだけ面白い話を紹介します。

私が神学生だった1983年に神学校の教員と学生が神田のニコライ堂という東方教会(ハリストス正教会)に見学に行った時、東方教会の説明をしてくださった司祭は、当時女性司祭の問題が話題でしたがそれに触れて、『カトリック教会が女性の司祭を認めたとしても、ハリストス教会は決して認めることはありません。』と断言されていました。

## (伝道しない教会 東方教会について)

もう30年以上前に亡くなった山本七平という人が、エルサレムの、古い伝統を守っている教会のことを書いていました。

『アラブ人キリスト教徒の多くは、ギリシア正教か、ローマ・カトリックのフランシスコ派である。これはかつてこの地がビザンチン帝国の一部であったという歴史、また十字軍時代にフランシスコ派が一心に伝道した歴史から見れば少しも不思議ではない。ビザンチン帝国が滅びたのは1453年だが、当時の主教ゲオルゴスは、国家の存続よりも宗教の存続を願った。彼にとって国家は絶対でなく、宗教とその存続が絶対であった。だがこれは、東方という世界を考える場合、当然のことかも知れない。イスラム教徒も正統派ユダヤ教徒も恐らく同じである。民族主義国家の歴史などというものはせいぜい二、三百年にすぎず、それは自己をかける対象ではないという感覚の方が、むしろ正しいのかも知れない。彼らを見ているとそんな気持ちになる。

「なぜ、伝道しないのですか、なぜ、民衆の中へ入ってゆかないのですか、なぜ、昔ながらのことを繰り返しているのですか」「何を言われます。十字架は道標です。道標は動いては行けません。羊（信徒）たちは道標から去って行く時もあるでしょう。しかし必ずもどって来る時があります。そのときもし道標が動いて羊のあとを追っていたら、彼らは道しるべを失うでしょう。主が昇天されてから、まだわずか二千年です。わずか二千年なのに、世の風潮に従って、道標が、あっちへ動いたり、こっちへ動いたりしたら、どうなります。動かずに立っていること、これが十字架、即ち種の道標の役目です」

こう言われて一言もなかったと友人の T さんは私に言った。「二千年、わずか二千年ねえ。時間の間隔がわれわれとは違うんだなあ、生残るのは果たしてどちらかねえ。彼らか、われわれか」。(写真集『歴史の都エルサレム』 文・山本七平、写真・善養寺康之) より

この本の説明に「東方教会ではクリスマスよりも復活祭が中心となっている」という説明もあります。325年にニケヤ会議で決めた復活日の計算を変更せず、聖職制度など頑なに守っている東方教会のあり方に、教会のあり方を考えさせられます。

### (月齢カレンダーについて)

私がイースターの計算方法に関心を持ったのは、2019年の3月21日が日本時間では満月だったのに、その満月は復活日を決める根拠にならず、次の満月である日本時間で

は4月19日という、復活日の規定『この満月は3月21日から4月18日までのいずれかの日に起こります。』（アメリカ聖公会祈祷書1979年版）からは外れていることへの疑問が起こったからです。

ところが、いろいろ調べているうちに、「月齢カレンダー」というのがインターネットのサイトにあることを知りました。<http://star.gs/cgi-bin/getucal1.cgi>

このホームページに行って、知りたい年と月を打ち込むと、その月の満月の日が表示されると同時に、その満月が何曜日であるかもわかるのです。

個人的興味から、自分の誕生した日が何曜日だったかもわかりました。自分の生年月日は誰でも言えるでしょうが、自分が何曜日に生まれたかを知るのにとっても役に立ちます。やってみてください。

ただ、私がこれを使って本当に皆さんに確認していただきたいことは二つです。

### ①1582年10月の表記を見てほしい。

この年、ローマ教皇グレゴリオ13世は、シーザーの設定したユリウス暦が太陽の運行より10日遅いので10月4日の翌日を15日にしていることです。この月の満月は、2日火曜日でした。そして4日木曜日の翌日が15日金曜日になっていて、普通は31日ある10月が、この年の10月は21日しかありません。そして4日と15日の月の欠け方は、自然な欠け方で、決して急に小さくなってはいません。

### ②30年4月の表記を見てほしい。

多くの学者が、イエス様の十字架にかかった日を、紀元30年の4月7日としています。この月齢カレンダーでは、4月7日が金曜日に当たっています。当時、ローマ帝国は、まだ1週間7日という制度はなかったでしょうし、イエス様の誕生を紀元1年にするのは後代のことですが、1年のスタートは正しいでしょうから、4月に入って7日目が満月なのは確かでしょう。そしてユダヤ教は、太陰暦ですから、4月7日はユダヤ教のニサンの月の14日に当たります。その日没から15日になって、過越祭が1週間続いて祝われていたでしょう。その最初の夜に、昼間屠った小羊の肉を食べたわけです。そしてイエス様

の十字架の死は、過ぎ越しの小羊が殺される時刻だった、とヨハネ福音書は説明するわけです。(他の福音書では木曜日の最後の晩餐が過越祭の食事にしており、1日ずれます。)

### (今後の予定と質問や意見を受け付けること)

1回目は復活日の計算について。2回目はクリスチャンになるとはどういう変化か。これらのことを語ってきました。次回は聖書の読み方、特に旧約聖書の物語と考古学との関係について、物語と史実の受け止め方について話そうと思っています。そして、第2回のテキストの補足などしたいと思います。

私の書いたテキストの文章表現の未熟さで、色々疑問に思われることが多かろうと思います。わかりにくい点など、感想や意見も聞かせてください。

個別に答えられる場合は、できるだけお答えしたいと思います。また、皆さんに知らせた方がいいものは、次回以降の原稿に反映させたいと思っています。

私の住所電話番号は、次の通りです。

〒880-0032 宮崎市霧島4-155 宮崎聖三一教会  
電話 0985-24-1423

小林史明